

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と 今後の改善方策 |
|-------------|---|---|---|---|---|
| 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | | 学校関係者の意見 | |
| 小 学 部 | 【学校目標】 2) 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援の充実 | 評価指標 ① 学習指導要領の各教科(知的障がい国語, 算数)にもとづいて, 指導内容表を作成する。 | 評価指標の達成度 ① 学習指導要領の各教科(知的障がい国語, 算数)について, 小学部に示されている第Ⅰ段階から第Ⅲ段階を一覧にまとめた指導内容表を作成した。 | 総合評価 (評定) B | ① 小学部の学習計画は, 1学期中に評価して計画を立てるようにされているのか。 1学期の評価を早めにして, 2学期には指導方針を決めて対応していくのがよい。 ○ 学習指導要領に基づき, 本校の教育課程について一人一人の教員が考えるための機会が必要である。様々な実態の児童一人一人に応じた各教科をおこなってつきたい力を明らかにし, どのように工夫して授業をすすめるかなど, 学習グループや学部全体で取り組む。 |
| | 【下位組織レベル】 ① 重複障がいのある児童の各教科(知的障がいの国語, 算数)について, 学習指導要領を活用し指導内容を明らかにする。 | 活動計画 ①-1 Ⅱ～Ⅳ類型を履修している児童について, 国語と算数の指導について話し合うケース会を年2回実施する。 ①-2 Ⅱ～Ⅳ類型を履修している児童の各教科(知的)の各段階やねらいをとらえるために, 学習指導要領解説の中の指導内容表を活用する。 | 活動計画の実施状況 ①-1 教育課程の見直しに合わせ, 重度重複障がいのある児童の国語と算数について学習グループで話し合う会を今年度中に実施する予定である。 ①-2 一覧表にまとめた指導内容表を活用し, 重度重複障がいのある個々の児童の国語, 算数の教科でつきたい力や指導する内容を今年度中に確認する。 | (所見) 学習指導要領の改訂による教育課程の見直しを受け, 重度の障がいのある児童の国語, 算数の教科の指導に要領に目を通したり, 段階を見やすいくまとめた指導内容表を活用したりして学部内で取り組むことができた。 | |
| | 【学校目標】 3) 家庭や地域との連携協働をもとに自立と社会参加とを目指した教育の推進 | 評価指標 ① 交流及び共同学習や参観日にボッチャの競技を実施し広める。 | 評価指標の達成度 ① 参観日には体育の授業での取り組みを参観していただいた。また, 北小松島小学校との交流及び共同学習(授業交流, なかよし交流)でボッチャ競技に取り組んだ。 | 総合評価 (評定) B | |
| | 【下位組織レベル】 ① 児童の実態に応じた教育活動を工夫し, ボッチャの競技を家庭や地域につなげる。 | 活動計画 ①-1 わかりやすいルール説明の教材を作成する。 ①-2 学校間交流や居住地校交流での実施に向け, 交流校の教員にボッチャの協議内容の理解を図る。 | 活動計画の実施状況 ①-1 児童や交流校の教員など, 始めて競技をする人にもわかりやすいよう, ルールを視覚的に簡潔にまとめた教材を作成した。 ①-2 事前に競技の流れやルールを簡単に説明した教材を送付し, ボッチャについての啓発を交流校で行った。 | (所見) ボッチャの競技をおとして, 本校の児童が自ら活動しながら関わりのある人たち(家族や交流校の友達)とふれあい, 授業で学習したことを般化させることができた。 | |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 次年度への課題と 今後の改善方策 | |
|--|--|---|--------------|---|--|
| 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | 学校関係者の意見 | | |
| <p>【学校目標】</p> <p>2) 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援の充実</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 的確な実態把握に基づいた個別の指導計画を設定し、指導を実践する。</p> | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 (評定) | <p>※全体についての助言 評価指標を2項目に増やすことで、多面的に評価できるようになり、評価の妥当性も高まると思う。</p> <p>○ 年度末のアンケートでは、年度初めのケース会は、まだ年間目標や年間の指導計画がまとまっていない状況なのでなくてもよいのではないかという意見が2件あった。生徒の実態把握や共有化という点では有効であると考えるが、ケース会までに、学級や学習グループで大まかな年間の指導計画を話し合えるような機会を設定し、ケース会で授業を担当者全員で目標を確認できるようにタイムスケジュールや会議設定を考へていく。</p> <p>○ アセスメントチェックリストは、重度重複障がい生徒の発達段階を把握する上で有効である。チェックリストから課題を整理する方法なども研修し、さらに有効に活用できるように検討する。</p> <p>○ ミニ研修会については、順番に一人ずつ講師をしてはどうかという声もあったが、量的に月1回程度が適当と考える。授業研修を含め、各学級や学習グループで持ち回りで担当するなど、身近な研修となるように工夫する。</p> | |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (所見) | | |
| | <p>① 教員の80%以上(昨年度70%)が、個別の指導計画の目標設定や評価について、妥当性を「とても高めることができた」「高めることができた」と回答する。</p> | <p>① 年度末の中学部教員13名(学校看護師は含まない)のアンケートでは、個別の指導計画の目標設定や評価について、妥当性を「とても高めることができた」が3名、「高めることができた」が9名、「あまり高めることができなかった」は1名という結果であり、評価指標以上の92%が肯定的回答であった。</p> | A | | <p>有効な指導の目標設定や指導内容、評価のためには、生徒に関する日々の実態把握が必須である。教育活動では集団的もこのことから、中学部の教員集会、ミニ研修会、中学部の生徒一人一人についての実態や課題等を共有化することができたのは成果であった。より教育的効果を上げていくためには、ケース会には、方等指導力・授業力を持ち、方等指導力・授業力を高めるためのシステム作りが必要であると考える。</p> |
| | <p>①-1 各生徒について、1学期2回(年間目標立案時、短期目標立案時)と、2学期2回(短期目標立案時、追加目標等見直し時)のケース会を設け、生徒の実態、指導・支援方法について情報交換や検討を行う。</p> | <p>①-1 1学期2回(年間目標立案時、短期目標立案時)と、2学期2回(短期目標立案時、追加目標等見直し時)、計年間4回のケース会を実施し、各生徒の実態、指導・支援方法について情報交換等を行った。</p> | | | |
| | <p>①-2 学部会で毎回生徒の状況報告を行い、教員間で共通理解を図る。</p> | <p>①-2 学部会で毎回生徒一人ひとりについて状況報告を行い、教員間で共通理解や情報の共有化を図った。</p> | | | |
| <p>①-3 II, III, IV類型生徒について、個別の指導計画の立案時にアセスメントチェックリスト(福山支援学校版)を活用する。学部会で、個別の指導計画の目標の立て方やチェックリストの付け方や見方、活用法について確認する。</p> | <p>①-3 アセスメントチェックリストの対象生徒9名について、年間2回のチェックが5名、3回のチェックが4名で、全員において活用できた。学部会で、チェックリストの付け方や見方、活用法の確認は、配付時の1回であった。</p> | | | | |
| <p>①-4 学期毎に研修計画を立て、コンサルテーションを受けた教員や情報防災課の教員、動作法など訓練技法を熟知している教員等が講師となり、学部会を利用して15分程度のミニ研修会を月1回以上設け共通理解や専門性を高める。</p> | <p>①-4 6月から1月の間、学部会等を利用して15分程度のミニ研修会をほぼ月1回のペースで計6回実施した。内容は、「道徳科」「スノーブレン」「Hook+2 使用法」「動作法」「PT コンサルテーションを受けて」であった。</p> | | | | |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 次年度への課題と 今後の改善方策 | |
|-------------|--|---|---|---|--|
| 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | | | |
| 高 等 部 | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評 価 (評定) | <p>① 修学旅行のガイドラインの変更点について教えてほしい。 (回答：実施にあたっての手順の参加の可否の決定の内容整理、実施において考えられるリスクの追加)</p> <p>評価指標の達成度で教員、保護者共に全員が「安全な実施にむけて準備できた」と回答したが、保護者からは準備に不備があったという話を聞いた。 修学旅行が安全安心に実施できるように教員の意識改革をさらにすすめていってほしい。</p> | |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | A | | |
| | <p>【学校目標】</p> <p>1) 安心・安全な学校づくりの推進</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 修学旅行を安心・安全に計画し、実施する。</p> | <p>① 教員、保護者の80%以上が、「安全な実施にむけて準備（共通理解等を含む）ができた」と回答する。</p> | <p>① 教員、保護者共に全員が「安全な実施にむけて準備（共通理解等を含む）ができた」と回答した。</p> | | <p>(所見) 前年度から計画し、実施までに3回実施し、学部会を中心に計画的に準備を進めた。安全な実施にむけては、医療的ケアを含めた24時間の配慮事項表作成、打合せが重要である。加えて、安全に実施できたのは、徳島赤十字ひのみね総合療育センターの協力のおかげである。 企画会（修学旅行検討委員会）で、本校の修学旅行の方針、実施方法の再確認、検討を行い、「修学旅行のガイドライン」を見直した。</p> |
| | <p>①-1 参加生徒について、医療的ケアを含めた24時間の配慮事項を表にして、引率教員間で共通理解を図る。</p> <p>①-2 宿泊先や見学先の地域の消防署や総合病院に連絡を取り、緊急時対応マニュアルを作成、保護者、引率教員間で共通理解を図る。必要に応じて個別の緊急対応マニュアルを作成する。</p> | <p>①-1 前回修学旅行時に作成した表を基に徳島赤十字ひのみね総合療育センターや保護者と連携しながら加筆修正を加え、生徒一人ひとりの24時間の配慮事項表を作成し、引率教員間で共通理解を図った。</p> <p>①-2 下見の際に見学先や宿泊先に・対し、緊急時の連絡先や対応について聞き取りを行い、協力を依頼した。また宿泊地の隣隣病院だけでなく、バスで通過する区間の病院2ヶ所にも緊急時の対応を依頼するなど万全を期した。作成した「修学旅行における予防対策および危機管理マニュアル」を基に保護者や看護師と共通理解を図った。</p> | | | |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| 重点目標 | | 自己評価 | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|--|---|---|---|------------------------------|---|
| | | 評価指標と活動計画 | 評価 | 学校関係者の意見 | |
| 企 画 総 務 課 | <p>【学校目標】</p> <p>2) 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援の充実</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 夏休み親子スマイル教室を開催し、親子で健康維持について学ぶことのできる研修会を実施する。</p> <p>② 全校研究を推進するために全校研究グループ会（以下、グループ会と略す）を支援する。</p> | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 (評定) B | <p>○ 保護者への研修支援は今年度の取組を継続しながら、事前に保護者から知りたいことを聴き取り、講師に伝えることで家庭での活用度を高める。</p> <p>○ 全校研究に関しては、今年度「自立活動実践シート」を全教員がグループに分かれて取り組んだ。今後も、様式の改善は全教員の意見を聞きながら係で検討を重ね、他の教員の意見も聞きながらよりよいものにしていく。一方で、グループ会の話し合いの精度を高めるためにはファシリテーターの育成が重要である。まずは、係を中心としたリーダーの養成を目指し、徐々にファシリテーターの人数を増やしていくように計画していく。その際には、研究の取組や自立活動の指導について深く知ってもらう機会を設定する。</p> |
| | | <p>① 保護者の70%以上が、「学んだことを家庭で活用した」と回答する。</p> | <p>① 「毎日活用した」人が17%、「週4日以上活用した」人は50%であり、「学んだことを家庭で活用した」人の割合は67%であった。</p> | | |
| | | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | |
| | | <p>①-1 保護者が講師から直接学ぶことのできる研修形態を企画する。</p> | <p>①-1 講義を聴いた後、保護者が児童生徒のポジショニングを行い、直接助言をいただく形式で実施した。</p> | | |
| | | <p>①-2 家庭で使用しているクッション類を持参してもらい、研修時に家庭で活用しやすい工夫を行う。</p> | <p>①-2 案内文に明記し、担任からも伝えてもらうことで自分の持ち物で実施することができた。</p> | | |
| | | <p>①-3 講師からアドバイスを受けたことを紙面に残し、家庭へ持ち帰ってもらうことで、助言を活用しやすくする。</p> | <p>①-3 写真入りでわかりやすく作成することで、見ながらできるように工夫した。全員に配付した。</p> | | |
| | | <p>②-1 グループ会で取り組む内容を整理するために、ワーキング会を3回以上実施し、様式や進め方の留意点をまとめる。</p> | <p>②-1 ワーキング会を13回実施した。1名の事例児を基に様式を検討し、グループ会の進め方等を決めていった。</p> | | |
| <p>②-2 グループ会の前に、リーダー会を1回実施し、会の進め方等の共通理解を図る。</p> | <p>②-2 ワーキング会のメンバーが各グループのリーダーになっていたため、他のリーダー3名については個々に説明することで共通理解を図った。</p> | | | | |
| <p>②-3 徳島県立総合教育センター特別支援・相談課の指導主事に、グループ会の進め方などについて1回以上相談する。</p> | <p>②-3 指導主事より助言を聞く機会を1回もった。研究の意義を再確認することができ、足りない点やおさえなければならないところを知ることができた。</p> | | | | |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| 重点目標 | | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|--|---|---|---|--|--|-----------------|
| | | 評価指標と活動計画 | 評価 | | 学校関係者の意見 | |
| 教 務 課 | <p>【学校目標】</p> <p>2) 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援の充実</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 学部と連携して、個別の指導計画の2・3学期の目標・手立てについてのケース会を設ける。</p> | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | <p>① 個別の指導計画のケース会の設定については、評価指標か到達達成度(評価)どちらを設けるか、両者設定する場合はどちらが先かというところが考えられる。個別の指導計画を客観的に測れるツールを活用してケース会を適切に行い、ビフォーアフターを測るのが一番よいと思う。応用行動分析学的な個別の指導計画のチェックリストがあるので使ってみるのもよいと思う。客観的な数字が見やすいので、先生方がセルフチェックして改良を加えることとさらに客観性を高めることにつながる。毎年人事異動で新転入した教員でも当初から指導計画を作れるようリストを使って向上させていくのがよいと思う。</p> | |
| | | ① 教員の80%以上が、2・3学期の中間期(12月初旬)のケース会について「適切な指導につなげることができた」と回答する。 | ① 2・3学期の中間期(12月初旬)のケース会について「適切な指導につなげることができた」と回答した教員が86.3%あった。 | (評定) 評価 | | A |
| | | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (所見) | | |
| | | ①-1 12月初旬に、ケース会の計画を立てる。 | ①-1 個別の指導計画を見直す時期(12月初旬)に合わせてケース会を設定した。 | 2・3学期の中間期に個々の児童生徒の進捗状況を確実学習グループで確認し合い、共通理解を促したり見直したりする機会となった。児童生徒23名の目標の追加や変更があり、新しい目標で取り組み適切に繋がることができた。 | | |
| | | ①-2 ケース会の目的、目標・手立て等の見直しの方法について、学部会で周知する。 | ①-2 各学部会において、個別の指導計画の見直し時期にケース会を行う必要性を説明した。個々の児童生徒の達成度を確認し、目標・手立てが合っているのか、達成できた場合は、新しい目標・手立てを検討することを確認した。 | | | |
| ①-3 見直しや追加項目について保護者に確認してもらう手続きを行う。(送付) | ①-3 見直しや追加項目について保護者にお知らせ(通知表の送付について)を送付し、確認してもらう手続きを行った。 | | | | | |
| | | | | | <p>○ 個別の指導計画は、1学期と2・3学期のまとまりで目標設定・評価を行っている。2・3学期は指導期間が長くなるため、中間期(12月初旬)にケース会を実施し、進捗状況の確認を主として行ったが、今回、目標の追加が多くあった。2・3学期の学習に合わせた目標設定が十分でなかった教科等があった。次年度は、2・3学期の長期を見越した目標設定や学習内容に合わせた目標数を立てること、また、数値や手立ての変更については3学期の評価で示し、新しい目標のみ追加を行うことを周知する。</p> | |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| | | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善方策 | |
|-----------------------|---|--|---|---------------------------------------|---|---|---|
| | 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | | 学校関係者の意見 | | |
| | | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | | | |
| 人 権 教 育 課 | 【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくりの推進 【下位組織レベル】 ① 児童生徒が安全な環境を整える。 | | ① 自力通学生の自宅を出てから学校まで、通学路の安全を図る。 | (評定) A | ※全体についての助言 評価指標を2項目に増やすことで、多面的に評価できるようになり、評価の妥当性も高まると思う。 | ○ 「いじめ防止に関する研修」で特別支援学校でのいじめの事例等を取りあげ、職員によりわかりやすく伝わるように企画する。また、保護者向けのアンケートの表題が適切ではないという意見があったことから次年度は表題の変更を検討する。 | |
| | | | ① 毎月、交通事故ゼロの呼びかけを行い、担任を通じて自力通学生に交通事故に遭わないように気を付けて登校するように伝えることで無事故で登校することができた。 | | | | (所見) 通学指導の継続により安全の確保やバス内のマナーの向上を高めることができ、今後通学指導も通学指導を継続し、事故がなくなるようにする。 |
| | | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | | |
| | | ①-1 通学路における危険箇所の調査を行い、特に学校側のバス停から学校までの通学路の安全を確認する。 | ①-1 安全に通学できるように、教員で学校側のバス停から学校までの通学路の安全確認を各学期1回行った。 | ①-2 担任に依頼し、バス乗車中の注意点を徹底する。 | | | ①-2 担任を通じて、自力通学生にバスを降りてから自宅までの安全とバス乗車中のマナーについて注意を図ることができた。 |
| | 【学校目標】 3) 家庭や地域との連携協働をもとに自立と社会参加とを目指した教育の推進 【下位組織レベル】 ① 人権教育研修会の方法を検討し、保護者の人権意識の向上を図る。 | | ① 人権教育研修会へ1年間で保護者の50%が参加し、そのうち70%の保護者が「人権意識が向上した」「人権問題に興味を持った」と回答する。 | (評定) A | | ○ 人権教育研修会への保護者のニーズを聞き取ることで保護者の参加をさらに推進し、増やしていく。またPTAと連携した研修会にすることで内容の充実を図っていく。人権意識の高揚について、あらゆる場面で取り組む。 | |
| | | | ① 保護者52名のうち、24名が参加した。アンケートでは、参加者の100%が、「人権意識が高まった」「少し高まった」と回答した。 | | | | (所見) 昨年の10名に比べると、研修参加人数は増加した。保護者の人権意識は高まり効果が感じられた。また、研修や啓発新聞の広報では、保護者にとって人権を身近なものに捉えることができたと感じる。 |
| | | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | | |
| | | ①-1 保護者対象の会や、児童生徒と一緒に参加できる会など、保護者が学びやすい研修会を企画する。 | ①-1 6月に保護者対象研修、12月に教員・児童生徒・保護者対象人権コンサートを行い、参加人数を増やすことができた。 | ①-2 人権教育研修会の内容を、人権啓発新聞「花みずき」に掲載し広報する。 | | | ①-2 6月や12月の人権教育研修会の内容をまとめ、人権啓発新聞に掲載し、広報した。 |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| | | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|------------------------------------|--|---|--|---|---|---|
| | 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | | 学校関係者の意見 | |
| | | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 (評定) | ※全体についての助言 評価指標を2項目に増やすことで、多面的に評価できるようになり、評価の妥当性も高まると思う。 | ○ 学校祭での警備において人員配置等の工夫を今後も考えたい。また、来年度は緊急対策訓練を予行練習終了後に設定することで実施を検討する。行事等の見直し等も行い、スリム化できるところはスリム化を進めていく。 |
| 特別活動 | 【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくりの推進 【下位組織レベル】 ① 情報防災課と連携し、安心・安全な学校祭を実施する。 | | ① 学校祭後にアンケートを実施し、保護者の80%が学校祭の安全対策について「安心できる」「概ね安心できる」と回答する。 | ① 体育祭・文化祭とも、保護者の100%が学校祭の安全対策について「安心できる」「概ね安心できる」と回答した。 | | |
| | | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | (所見) 物理的な人員不足はあったものの、学校祭の安全対策については、保護者から一定の評価を得た。 | |
| | | ①-1 学校祭参加者に防犯リストバンドを配布し不審者対応の徹底を図る。 | ①-1 学校祭参加者全員に防犯リストバンドを配布した。 | | | |
| | | ①-2 学校祭開催中における災害発生時などの、緊急時対応を含めたパンフレット作成や、緊急時避難経路を徹底する。 | ①-2 学校祭開催中における災害発生時などの、緊急時対応を含めたパンフレットをプログラム裏面に印刷し、緊急時避難経路を徹底した。 | | | |
| | | ①-3 情報防災課と連携し、学校祭開催時の緊急対策訓練を実施する。 | ①-3 情報防災課との話し合いは行ったが、緊急対策訓練は実施できていない。 | | | |
| 課 | 【学校目標】 3) 家庭や地域との連携協働をもとに自立と社会参加とを目指した教育の推進 【下位組織レベル】 ① 外部専門家を活用した学校行事の充実・活性化を図る。 ② ボッチャを競技を通じた学校行事の充実・活性化を図る。 | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 (評定) | (所見) 昨年度と同様の回数で「外部専門家を活用した事業」を実施することで児童生徒の経験をき増やすことができた。ボッチャについては、研修が予定回数を実施できなかったため、翌年度以降の課題にしたい。 | ○ 外部専門家を活用した事業は、毎年必ず実施できるものではないため、他にも、類似の事業があれば積極的に実施を検討したい。ボッチャについては、研修を継続して実施しパラスポーツへの理解を深める。 |
| | | | ① 教員の80%以上が「外部専門家を活用した事業の内容が適切であった」と回答する。 | ① 教員の98%が「外部専門家を活用した事業の内容が適切であった」と回答した。 | | |
| | | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | |
| | | ① 芸術家派遣事業や、保護者参加型のNPOの出前授業等の外部専門家を活用した事業を年間2回以上実施する。 | ① 芸術家派遣授業（音楽鑑賞）とNPO出前授業（香りの教室）を各1回ずつ実施した。 | | | |
| | | ②-1 パラリンピックの公式競技であるボッチャへの理解を深めるため、ボッチャ講習会等（初級～中級）を年間3回実施する。 | ②-1 若手の教員を対象とした、初級のボッチャ講習会を2回実施した。 | | | |
| ②-2 交流及び共同学習時や参観授業等でのボッチャ競技会を開催する。 | ②-2 交流及び共同学習時にボッチャ競技会、参観日にボッチャ大会（小学部）を開催した。 | | | | | |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 次年度への課題と 今後の改善方策 | |
|-----------------------|---|--|---|---|--|
| 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | | | |
| | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 (評定) | | |
| 進 路 支 援 課 | <p>【学校目標】</p> <p>3) 家庭や地域との連携協働をもとに自立と社会参加とを目指した教育の推進</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>① 教育と福祉の一層の連携等を図るために、進路や福祉制度に関する情報を提供し、本校の進路指導の充実を図る。</p> | <p>① 活動計画に参加した教員や保護者の80%以上が「知識が深まった。」「満足・やや満足」と回答する。</p> | <p>① 活動計画に参加した教員や保護者の100%が「知識が深まった。」「満足・やや満足」と回答した。</p> | <p style="text-align: center;">A</p> <p>(所見) 施設を見学することで、教員と保護者の施設に関する知識が深まった。教員が福祉施設を見学することで、児童生徒の進路についてより具体的にイメージすることができた。</p> | <p>① 評価指標の達成度では、施設見学会に参加した保護者のみにアンケートを実施し、評価したため高い結果となっている。施設見学会に参加できなかった保護者にもアンケートを実施し、幅広く意見を聞く必要があったと思う。施設見学会実施の時期、見学場所等について保護者の進路担当者と密に連絡をとる必要がある。来年度は、計画の前段階で希望調査をして、保護者（進路担当者）と話し合いながら施設見学会を計画する必要がある。保護者、児童生徒の進路に関するニーズに幅広く柔軟に対応していくことが求められている。さらに進路については本人と保護者、学校関係機関と連携して進めていく必要がある。</p> <p>② 教員から、昨年度実施した本校高等部の具体的な取組を紹介する校内進路研修会の希望があった。本校卒業後に利用できる施設が少ないことも含め、高等部の進路の取組について、教員が共通理解を図ることも有効である。</p> <p>③ 希望があった保護者の相談は、ニーズを知るために有効であるが、具体的な制度の説明には複数回の面談が必要である。</p> <p>④ 福祉制度に関する情報は、「福祉サービス一覧」で更新後、教員へ広報する。</p> <p>⑤ 保護者施設見学会では、アンケートの希望する見学場所に、前年度実施した施設の希望があった。見学場所を繰り返し計画することも必要である。</p> <p>⑥ 年度初めに、進路指導計画を教員と保護者に案内した。今後も、小・中・高とつながる進路指導の充実を目指す。</p> |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | |
| | <p>①-1 本校卒業生のいる福祉施設を見学したり施設職員と協議したりして、児童生徒の具体的な進路について知識を深める。</p> <p>①-2 各学部で必要に応じて進路に関するケース会を実施し、情報を共有し、小・中・高とつながる個々の進路指導に生かす。</p> <p>①-3 掲示物「福祉サービス一覧」を定期的に更新し、最新の情報を保護者に提供するとともに、連携して保護者施設見学を企画・実施する。</p> | <p>①-1 夏季休業中に13名が眉山園を見学した。施設職員による説明を聞いたり作業を見学したりした。</p> <p>②-2 進路指導主事が、希望のあった小学部保護者への進路に関する相談を実施した。担任も同席し情報を共有した。</p> <p>③-3 「福祉サービス一覧」は、一度更新した。保護者施設見学会は徳島赤十字ひのみね総合療育センター生活介護「かがやき」を見学した。当日は、児童生徒の体調不良による不参加もあったが、小学部の2名の保護者が進路指導主事と参加した。</p> | | | |
| | | | | | |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|--|--|--|---|--|
| 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | 学校関係者の意見 | |
| 保健厚生課 | 【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくりの推進 ① 給食指導，食事に関する指導において，安全への意識や協力体制の向上を図る。 | 評価指標 | 評価指標の達成度 | ① 給食時における緊急対応訓練の達成度は高くなっている。所見から，教員が全体の動きを意識できなかったことがわかり，総合評価をBにしていることは理解できる。評価指標は予定なので，今回に組み込めなかったのは仕方がない。様々なリスクについて考えてみる必要がある。しかし評価指標の達成度と評価が一致しないのは好ましいことではないので来年度は整合性を図るようにする。 |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | 総合評価 (評定) B | |
| | ① 給食時における緊急対応訓練において，教職員が「自分の役割を意識して取り組めた」と80%が回答し，意識の転換を進めることができる。 | ① 「自分の役割を意識して取り組めた」と6月は95%，9月は100%の教員が回答した。 | (所見) 給食時の緊急対応訓練では，事前の確認を自分の役割への意識を高めることができた。ただ，全体の教員の動きについてもっと意識してもらわなければならないと思われ，配慮事項については，情報の共通理解ができるようデータをまとめてはいるが，もう少し内容の整理が必要である。 | |
| | ①-1 給食時の緊急対応訓練を年間2回実施し，うち1回は有事における給食時の緊急対応訓練を実施する。 | ①-1 1回目は小学部児童が誤嚥した想定で訓練を実施，2回目は給食時に地震が発生した場合を想定して訓練を実施した。 | | |
| | ①-2 訓練後のアンケートから課題を共有し，次回への訓練意識が転換するように図る。 | ①-2 1回目のアンケートで事前の話合いが必要という意見があり，2回目は学部会で対応の確認を行い，訓練開始前に各グループごとに集まり話し合ってから実施した。 | | |
| | ①-3 給食時や授業中の飲食指導時の配慮事項について，全学部の児童生徒の情報を共有し，共通理解を図るために活用できるようにする。 | ①-3 食事の配慮事項について，全学部の教員が閲覧できるフォルダで管理し，周知した。 | | |
| ①-4 変更・追加があれば随時連絡し，各学期ごとに担当する児童生徒の配慮事項を確認するよう周知する。 | ①-4 2学期，3学期開始前にアレルギー等について再度確認するよう連絡した。 | | | |
| 3) 家庭や地域との連携共働をもとに自立と社会参加とを目指した教育の推進 | 評価指標 | 評価指標の達成度 | ※全体についての助言 評価指標を2項目に増やすことで，多面的に評価できるようになり，評価の妥当性も高まると思う。 | |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | 総合評価 (評定) A |
| | 【下位組織レベル】 ① 環境教育の取り組みを推進する。 | ① 児童生徒が年間2回以上環境保全に関する活動に参加する。 | ① 学校周辺の清掃活動に年間4回参加できた。 | (所見) エシカル消費啓発ポスターの校内募集をしたことは，多くの児童生徒が環境保全について関心を持つことができた。地域のショッピングセンターで啓発ポスターを配付したことで，地域の方がペットボトルキャップを学さ校へ届けてくれた。 |
| | ①-1 地域の清掃活動を学部ごとに実施する。 | ①-1 小中学部は各1回，高等部2回，4～5月に実施した。 | | |
| | ①-2 エシカル消費を推進するポスターデザインを校内募集する。 | ①-2 全校児童生徒へ呼びかけ，13点の応募があった。投票で得票数が一番多い作品をポスターにした。 | | |
| ①-3 リサイクル資材を活用した作品づくりをする。 | ①-3 裏庭で伐採したびわの木や廃棄する再生粘土を使ってマグネット作りをした。 | | | |
| ①-4 リサイクル資源の回収をする。 | ①-4 ペットボトルキャップは回収してワクチン支援へ，空き缶とペットボトルは中高等部で回収し，回収業者へ持って行った。 | | | |

平成31年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 次年度への課題と 今後の改善方策 |
|--|---|---|--|---|
| 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | 学校関係者の意見 | |
| 【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくりの推進 【下位組織レベル】 ① 児童生徒の実態に応じた通学生用防災かばん（医療的ケア・食事等）の整備を行う。 | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | ① ひのみね総合療育センターや各家庭からの通学生はそれぞれに食事内容や必要とする医療的ケアが大きく異なるので、個々の児童生徒への対応が大きく変わってくると思われる。各自が準備している防災かばんの中に、個々の対応について具体的に記入したものを入れておくことさらに防災かばんの使い勝手がよくなり、いざというときに役立つと思う。 ② 保護者と協力した「引き渡し訓練」及び児童生徒が在学中に災害が起きた際の、避難所運営に関してまだ十分ではない。「引き渡し訓練」「避難所運営」に関して、机上訓練、研修等を通じて実践で活用できる研修を実施する。 |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (評定) A | |
| | ① 通学生用防災かばん（医療的ケア・食事等）の整備率 100%を達成する。 | ① 本年度通学生用防災かばんについて整備率 100%を達成した。 | (所見) 学期ごとの見直しや、保護者との協力のもと、防災かばんを確認することにより、お互いの防災意識の向上を図ることができた。また、実態に応じた防災かばんによる準備することにより、児童生徒に対する防災への備えについて深く考える機会を持つことができた。 | |
| | ①-1 家庭と連携した、防災かばんの見直しを行い、点検を実施する。 | ①-1 学期ごとに家庭に文書を発送し学級・HR 担任が協力し点検を実施した。 | ①-2 学級・HR 担任及び保護者の協力の下、児童生徒の実態に応じた防災カード、医療的ケアカードを作成した。 | |
| ①-2 児童生徒の実態に応じた防災カード医療的ケアカードを作成する。 | ①-2 各学級・HR 担任主導の下、備蓄品カードを作成した。 | ①-3 児童生徒の防災かばん内のものが分かる備蓄品カードを作成する。 | ①-3 各学級・HR 担任主導の下、備蓄品カードを作成した。 | |
| 【学校目標】 3) 家庭や地域との連携協働をもとに自立と社会参加を目指した教育の推進 【下位組織レベル】 ① 学校ホームページの更新頻度の向上を図る。 | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | ① 現在学校が作成している、見に行かないと情報が得られないタイプの情報発信は世代的に変わってきており、効果的とは言えなくなっている。今後は、相手からリアルタイムで情報発信してくるタイプが主流になると考えられる。時間をかけて作成しているが、実効性がなないので作成者は大変である。少しでも児童生徒や地域連携に役に立つ方向で情報発信も変わってほしい。保護者にニーズを聞いてみるのもよいと思われる。 ② 現在のホームページの更新頻度を維持向上できるよう、広報する。 ③ ホームページの改善に向け、教職員や保護者、交流校からの意見を集める。 |
| | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (評定) A | |
| | ① 毎月5回以上の更新をする。 | ① 毎月5回以上の更新を促すことにより毎月5回以上更新できた。 | (所見) 基本的なことではあるが、学校で行われた行事等について広報するこら大切さをあらためて考えるよい機会となった。各課担当で、更新頻度の差がみられた。今後は、ホームページで発信していく内容等を精選する必要性を感じた。 | |
| | ①-1 更新が滞っているページを月1回以上チェックし更新に向けての広報活動を行う。 | ①-1 毎月末にホームページのチェックを実施した。職員会議や職員朝会掲示板等を通じて、更新を促す活動を行った。 | ①-2 ホームページ作成上のマニュアルを作り、研修を実施した。 | |
| ①-2 ホームページ作成上のマニュアルを作り、研修を実施する。 | ①-3 研修時、作成者より意見をもらうことによりマニュアルを改訂した。 | ①-3 研修等でできたマニュアルの改善点を活かし改訂を行う。 | ①-3 研修時、作成者より意見をもらうことによりマニュアルを改訂した。 | |

